

Watch Repairing 時計修理

腕時計の修理を通して持ち主の思いを大切にする

どのような環境においても腕時計が正確に時を刻むためにメンテナンスを行うのが時計修理の仕事です。競技では、その修理に必要な技術や技能、センスが問われます。腕時計は正しい時刻を知ったり、時間を計ったりする役割に加えて、持ち主の個性を表現するアクセサリのような役割も持っています。そのため、単純に壊れた機能を元どおりに修復するだけでなく、持ち主の愛着や思い入れに応えるような、高い技術とセンスが必要とされています。

競技について 競技時間：2日／7時間30分

課題は2日間かけて行われます。1日目の課題は、クォーツ腕時計と機械式ムーブメントの不具合箇所を見つけ出して、課題に定められた正しい状態になるよう修理すること。修理と同時に、腕時計の分解・洗浄・注油・組立も行い、きれいに仕上げて提出します。2日目は、支給された材料を用いて、時計に使われている「巻真形状部品」を手作業で製作します。

競技職種と生活との関わり

時計は正確に時を刻まなければならないと同時に、腕時計は身につける装飾品として美しくなければなりません。時計には様々な種類がありますが、ゼンマイの動力で歯車を回転させて動かす機械式時計と、電波時計を含む電池式やソーラー式のクォーツ時計と、大きく二つに分かれます。時計それぞれのメカニズムを理解し、不具合のある状態の時計を元どおりに復元することができる時計修理職人。その手によって、愛着がある時計を長年にわたり、使い続けることができるのです。

前回大会金メダリストからメッセージ！

多くの困難を乗り越えた時こそが、大きく成長するチャンスだと思います。最後まで諦めずに挑戦し続けてください！！



長久保 優さん
盛岡セイコー工業(株)

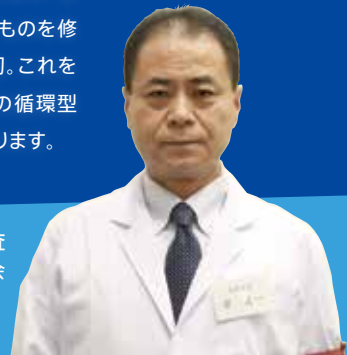


機械式
ムーブメント

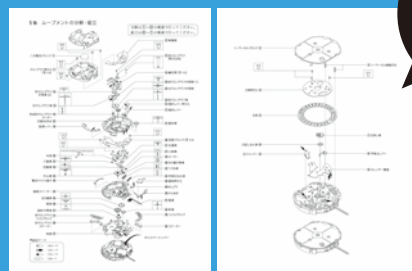
使い続けるために求められるのは 正確性と美しさ

1日目、2種類の腕時計を修理する課題では、不具合のあった箇所の修理状況や、時計としての完成度が求められます。2日目の部品製作課題では、工具を使った加工精度の正確性が評価のポイント。時計修理では既製の部品がない場合、時計技能士自身で部品を作ることもあります。エコロジーの観点から見ても、ものを修理して使うことはとても大切。これを支える時計技能士は、今後の循環型社会に不可欠な存在でもあります。

岸 良一 主査
一般社団法人日本時計協会



2023年大会
競技課題



<クォーツムーブメントの分解・組立図>



ドライバー &
拡大鏡

ピンセット &
拡大鏡